

第 20 回 CPD WG 委員会議事録

日時：平成 22 年 1 月 14 日（木） 15:00～17:00

場所：日本工学会事務所（港区芝 5-26-20 建築会館 6 階）

出席者（順不同、敬称略）：

主査 関田 真澄（(社)日本冷凍空調学会 事務局長）

委員 片山 功三（(社)土木学会 技術推進機構長、土木分野）

黒澤 兵夫（TAKE 国際技術士事務所、日本技術士会）

児玉 公信（(株)情報システム総研 取締役副社長、情報分野）

武田 裕久（(株)電業社機械製作所 上席執行役員、機械部門）

山本 誠（東京理科大学工学部機械工学科 教授、機械分野）

事務局 四戸 靖郷

配布資料：

CPD09-20-1：第 19 回 CPD WG 会合議事録（案）

CPD09-20-2：第 2 回 CPD 運営委員会議事録

CPD09-20-3：ガイドライン最終案（HP 掲載抜粋）

CPD09-20-4：ガイドラインパブコメ意見対応収録版

議 事：

関田主査が議長となり議事が行われた。

1. 前回議事録確認

昨年 11 月 4 日に開催された第 19 回 WG 会合の議事録案の確認が行われ、承認された。

2. 第 2 回 CPD 運営委員会議事録確認

昨年 11 月 30 日に開催された第 2 回 CPD 運営委員会の議事録が確認された。

3. CPD ガイドライン案応募コメントの検討

①事務局に寄せられた 7 題のコメントに対して、本日欠席の橋谷理事、木村委員ら事前にそれぞれ対応のコメントも寄せられ、合わせて、各応募コメントごとに検討が行われた。

以下、おもな議論や対応のコメントを要約して記載する。

②これら相互のコメントや議論内容を整理し、今回のガイドライン案パブコメ募集の結果報告と、各コメントへの回答案を関田主査がまとめ、年度内に工学会 HP に掲載することとした。

Comment-1：佐々木寿朗氏(日本工営)のコメントに対して

- ・本ガイドラインは主として CPD 協議会に入会している学協会や関連学会用であり、資格者だけに限定しない。

- ・理解のために、CPD 推進の思想や理念を前書きや最後に記述したほうが良い

Comment-2：奥津良之氏(計測制御学会)のコメントに対して

- ・あくまでガイドラインなので、各学協会に規定があれば、それに従えばよいだろう。

- ・前文にあるのだが、各学協会が既に CPD を実施しているのに、なぜ今頃工学会のガイドラインなのか…と思う向きもある。

- ・工学会の HP から各学協会の CPD プログラムに飛ぶのは現状難しいが、CPD の頁に飛

ぶようにすることは検討する。

Comment-3：渡辺良男氏(照明学会)のコメントに対して

- ・各学協会で技術者の教育プログラムに基づく講習会などを行っているところも多い。
- ・CPD ポイントは各学協会によるもので、統一基準は無理なことだ。

Comment-4：武田裕久氏(ターボ機械協会)のコメントに対して

- ・ガイドラインの「定義」のところで説明をしているが、不十分のようだ。
- ・日本語で、「継続研さん」や「技術者の継続的能力開発に向けて」などの副題をつけ、一般でも理解できるように工夫することも必要ではないか。

Comment-5：児玉孝亮氏(電気学会)のコメントに対して

- ・確かに章立てしたほうがわかりやすい。最初に定義があれば順序はこだわらない。
- ・このガイドラインは会員学協会を対象にしたものであるため、CPD プログラムを「会員学協会が提供するもの」としたので混乱したが、以外の研修も認めているケースも多いので、参加型研修プログラムとしたほうが良い。

Comment-6：黒澤兵夫氏(日本技術士会)のコメントに対して

- ・CPD の相互認証は、学協会間の問題であり重点や重みも異なり現実には難しいが、参加機会・参加者などの量の拡大のために優良プログラムの交流などに努力することだ。
- ・資格制度のことをいうと、関係ない向きもあり、ガイドラインの趣旨と違ってくるので、こだわらないほうが良い。

Comment-7：菅谷公秀氏(日本技術士会)のコメントに対して

- ・技術者の資質向上にかかわる部分では言いすぎともとれる表現であり、技術者の人間力強化や技術以外の能力などの表現も検討する。
- ・品質保証ガイドライン案でも会員学協会が提供するものに限定せず、CPD 主催者すべてを対象にする文章が望ましい。

4. ポータルサイトについて

- ①ポータルサイトについて推進が議題となっているが、技術的、人的に難しい。
- ②努力目標は、各学協会との相互リンクの確立の上に、工学会の HP の「CPD」項目から、各学協会の各 CPD ページにつながるようにすることである。それでも、工学会事務局の作業や各学協会でのメンテナンスがネックになる。

今回は、3月3日(水)15:00～17:00、日本工学会事務所で開催することを申し合わせて、終了した。

以上